



株式会社セブン銀行の第4世代ATM「ATM⁺」について

信金中央金庫 地域・中小企業研究所 上席調査役

とね かずゆき
刀禰 和之

(キーワード) ATM戦略、店内・店外ATM、コンビニATM、プラットフォーム化

(視 点)

キャッシュレス化の進展などを見据え、昨年来、メガバンクや地域銀行の間でATM戦略を見直す動きが加速している。信用金庫についても利用状況などを勘案した店内・店外ATMの総台数削減、稼働時間の短縮、機能の再設定などがみられるようになった。

その一方で、コンビニATMの台数増および機能拡充が目立つ。全国に25,000台のコンビニATMを展開するセブン銀行は、現金の入出金といったキャッシュポイントとしてのATM設置から社会生活全般のプラットフォーム化に取り組んでいる。同行が2019年9月にリリースした第4世代ATM「ATM⁺」(エーティーエム プラス)は、AIや顔認証機能といった最先端の技術を搭載することで、活用の幅を広げていく見通しである。

そこで本稿では、セブン銀行のコンビニATMについて、現行の第3世代ATMの特徴と、最新の第4世代ATM「ATM⁺」を中心に紹介する。

(要 旨)

- 昨年来、ATM戦略を大きく見直す金融機関が増えている。信用金庫においてもATMの総台数削減や稼働時間の短縮などがみられるようになった。
- 25,000台を超えるコンビニATMを全国展開するセブン銀行は、2019年9月以降、最先端の技術を盛り込んだ第4世代ATMへの入替えを開始した。
- 同行の第3世代ATM(現行機種)の特徴的な機能・サービスを挙げると、①多言語対応、②スマートフォン対応、③資金決済事業者などとの提携がある。
- 最新の第4世代ATM「ATM⁺」は、既存のATMを超える機能・サービスを盛り込むことで、社会生活全般のプラットフォーム化を目指す。

はじめに

キャッシュレス化の進展などを見据え、昨年来、メガバンクや地域銀行の間でATM戦略を見直す動きが加速している。信用金庫についても利用状況などを勘案した店内・店外ATMの総台数削減、稼働時間の短縮、機能の再設定などがみられるようになった。

その一方で、コンビニATMの台数増および機能拡充が目立つ。全国に25,000台のコンビニATMを展開するセブン銀行は、現金の入出金といったキャッシュポイントとしてのATM設置から社会生活全般のプラットフォーム化に取り組んでいる。同行が2019年9月にリリースした第4世代ATM「ATM⁺」（エーティーエム プラス）は、AIや顔認証機能といった最先端の技術を搭載することで、活用の幅を広げていく見通しである。そこで本稿では、セブン銀行のコンビニATMについて、現行の第3世代ATMの特徴と、最新の第4世代ATM「ATM⁺」を中心に紹介する。

1. ATM戦略を見直す動きの加速

昨年来、ATM戦略を大きく見直す金融機関が増えている。メガバンクの三菱UFJ銀行と三井住友銀行は、2019年9月から店舗外ATMの共同利用（他行ATM手数料の一部無料化）を開始した^(注1)。店舗ネットワークの抜本的な再編成に取り組む一部の地域銀行では、数年をかけて店外・店内ATMの大幅な

台数削減策を打ち出している。また、第二地方銀行の東京スター銀行のように自行所有のATMの一部を、セブン銀行に委託する事例も出てきた^(注2)。

その一方で、信用金庫は顧客利便性を維持するためATMの効率化に消極的だったとされる。実際、2001年以降の信用金庫のATM総台数をみると、19,000台の後半で推移しており、地域銀行などに比べ効率化で遅れがみられる^(注3)。

しかしながら、日本銀行による長短金利操作付き量的・質的金融緩和（マイナス金利政策）を背景とする採算・コスト意識の高まり、キャッシュレス社会の進展による中長期的なATM稼働率の低下予想などから、足元では店内・店外ATMの総台数削減や稼働時間の短縮、機能の再設定などが進み始めた。

一例として、2019年12月末の信用金庫の店外ATM設置台数は4,280台となり、前年同期から2.9%、131台減少した。信用金庫別では、①増加が30金庫、②増減なしが138金庫、③減少は75金庫となった（図表1、店外ATM未設置の14金庫を除く）。なお、増加30金庫のなかには、店舗統廃合後に店外ATMを設置する事例もあり、必ずしも拠点数の増加を目的とした店外ATMの増強ではない可能性もある。

今後、2021年度に予定される500円硬貨の改铸、2024年度に予定される1,000円・5,000円・10,000円紙幣の改刷に向け、信用金庫の

(注)1. 三菱UFJ銀行および三井住友銀行のニュースリリースを参照

2. 東京スター銀行のニュースリリースを参照

3. (一社)全国銀行協会「決済統計年報」を参照

図表1 信用金庫の店外ATM設置台数の増減
(18年12月末→19年12月末)

(単位：金庫、%)

分類	金庫数	割合
増加	30	12.3
2台以上増加	6	2.4
4台以上増加	2	0.8
増減なし	138	56.7
減少	75	30.8
2台以上減少	40	16.4
4台以上減少	17	6.9
合計	243	100.0

(備考) 1. 未設置の14金庫を除く。
2. 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

間でも効率化を前提にATMの見直しが加速すると予想される。

2. セブン銀行の概要

メガバンク、地域銀行、信用金庫の多くがATMの効率化を急ぐ一方で、コンビニATMを全国展開するセブン銀行の台数増・機能拡充が目立つ。

東京都千代田区に本社を置くセブン銀行

図表2 セブン銀行の概要

名称	株式会社セブン銀行
本社所在地	東京都千代田区
設立	2001年4月10日
開業	2001年5月7日
資本金	30,701百万円
従業員数	471人

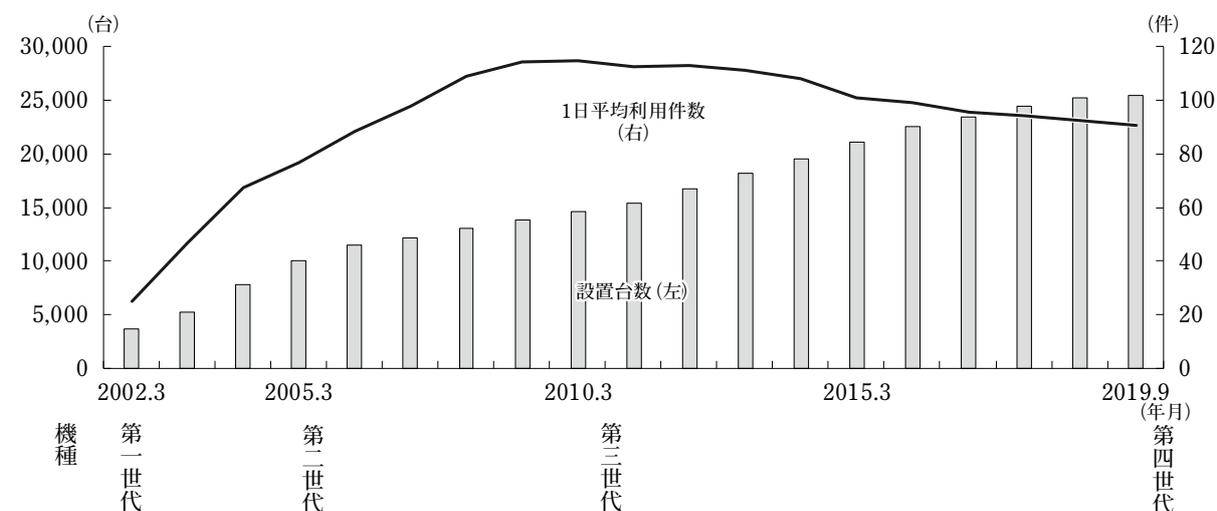
(備考) 2019年9月末

は、異業種からの新規参入による新設銀行として、2001年4月に設立された(図表2)。一般に流通系銀行や新形態銀行とも呼ばれ、ATM手数料を主な収益源とする。

同行誕生の経緯は、『コンビニエンスストア内にATMがあれば便利』とのニーズからであり、2019年9月末時点で全国のセブンイレブンを中心に25,000台を展開する。

コンビニATM設置台数の増加に加え機能面をみると、開業時の第1世代ATMから進化を続けており、2005年7月に第2世代ATMが、2010年11月には第3世代ATMが登場し、入替えが進んだ(図表3)。さらに2019年9月には

図表3 セブン銀行ATMの設置台数と1台あたり1日平均利用件数の推移



(備考) 図表3、4ともにセブン銀行公表資料より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

既存のATMサービスを超越する最新の第4世代ATMがリリースされ、2020年夏のオリンピックを控えた東京都内から入替えが始まっている。

ATM1台あたりの1日平均利用件数は、競合を含めたコンビニATM設置台数の急速な増加などから近年、伸び悩みがみられる。こうしたなか同行では、交通系電子マネーや資金決済事業者などとの提携拡大で利用件数の伸長は可能だと考えている。

以下、同行のコンビニATMについて、現行機種（第3世代ATM）の特徴および最新の第4世代ATMの機能・サービスなどについて紹介する。

3. 第3世代ATM（現行機種）の特徴

(1) コンセプト

第3世代ATMの開発コンセプトは、「ATMの究極化」であった。既存ATMの機能は全て盛り込むと同時に、故障などの障害発生率も限りなくゼロに近づけた。一般にコンビニATMは、スペースの限られるコンビニエンスストア内に1台設置を基本とする。そのため、障害や現金の過不足の発生を抑えることが求められる。同行の第3世代ATMの稼働率は、監視センターの拡充に加え、ATM内の現金カセットを3個から5個に増やし現金オペレーションの効率化を図るなどし、99.98%を誇る。

(2) 主な機能・サービス

第3世代ATMの主な機能・サービスを挙げ

ると、①多言語対応、②スマートフォン対応、③資金決済事業者との提携などがある。

① 多言語対応

同行のATMサービスは、多言語をカバーする。同行顧客が海外送金サービスを利用するため、ATM取引画面を9言語対応としている（図表4）。また、訪日旅行客の増加などに対応できるよう、2015年12月に海外発行カードのATM画面や明細票を12言語対応に拡充した。

図表4 9言語に対応するサービス

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・セブン銀行口座のATM取引画面・口座の取引状況などが確認できる「通帳アプリ」・海外送金サービスを便利に利用できる「海外送金アプリ」・顧客窓口となるカスタマーセンター |
|--|

（備考）9言語は、日本語、英語、タガログ語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語

② スマートフォン対応

同行のコンビニATMは、同行を含む金融機関の預金口座やキャッシュカードがなくてもスマートフォンで現金の入出金などを行える。そこで同行は、2018年1月に送金・決済サービスを行う子会社の株式会社セブン・ペイメントサービスを設立し、5月より「ATM受取サービス」を開始した。同サービスは、企業から個人への送金を、同行ATMとセブン-イレブンのレジなどを介して原則24時間365日受け取ることが可能なサービスである。わかりやすく言えば、企業が個人に現金を渡す際、口座番号

が不要な（口座への振込みを行わない）仕組みと言える。

通信販売の返品時の返金、在宅ワーカーへのアルバイト代の支給、少額の保険金の支払い、就職セミナーに参加した学生への交通費の支給など、現金での支払いや振込みではない仕組みとして導入企業が増えている。

③ 資金決済事業者との提携

同行は、2017年8月から資金決済事業者との提携を進めている。キャッシュレス化が進展するなか、現金のチャージニーズなどを取り込んでいく考えで、交通系電子マネーに加え、足元では提携先の「PayPay」や「LinePay」などの利用が伸びている。今後も提携先の拡大を目指すと同時に、日本型キャッシュレス社会のなかで活躍余地を広げていきたいとしている。

4. 第4世代ATM（ATM⁺）の登場

(1) コンセプト

セブン銀行は、2019年9月に最先端の第4世代ATMをリリースし、既存の第3世代ATMから入替えを開始した。第4世代ATMの開発コンセプトは、第3世代ATMの延長ではなく、既存のATMを超える機能・サービス提供を目指すものである。今やコンビニエンスストア内にATMがあるのは当たり前である。同行は、次の段階としてコンビニATMを現金の入出金などに限らず社会全般のプラットフォーム化、新しいサービスイン

フラに位置付けていく。同行は、第4世代ATMのコンセプトをATMの機能を超越の意味で「ATM⁺」（エーティーエム プラス）と命名した（図表5）。

障害発生率をもう一段下げるため、機器が故障してから部品を交換するのではなく、故障前に部品交換を知らせるAIの予兆管理システムを導入した。これは、障害が発生する前にアラームの鳴る仕組みで、さらなる稼働率の向上に取り組んでいく。コスト面や環境負荷への低減も意識しており、例えばコスト面では第3世代ATMの内部カセットを流用、稼働率の向上によるメンテナンスコスト低減、消費電力の削減（現行比40%減）など

図表5 第4世代ATM「ATM⁺」



（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所撮影

を実現した。

(2) 主な機能・サービス

ATM⁺の主な機能・サービスを挙げると、①顔認証技術による本人確認、②QRコードの読取り、③Bluetooth技術によるワン・トゥ・ワン マーケティングなどがある。

① 顔認証による本人確認

ATM⁺は、顔認証の可能なカメラと本人確認書類が読取可能なスキャナーを搭載する。これを用いて、より強固なセキュリティを実現できるため、例えば金融分野では、キャッシュカード+暗証番号ではなく、顔認証で預金口座の入出金なども可能となる。また、現金の入出金時のセキュリティをキャッシュカード+暗証番号+顔認証にもできる。今後の利用拡大が期待される新サービスとして、顔認証・本人確認の仕組みを用いた口座開設がある。一般の金融機関が採用する非対面の口座開設方法より本人確認の確実性が高まると考えられる。

そこで同行は、2019年10月28日から12月20日まで同行の口座開設の実証実験を行った。実験場所は、丸の内の3台と新宿の2台の合計5台である。口座開設を希望する個人は、スマートフォンで必要事項を事前に入力し、その情報をもとに出力されたQRコードをATM⁺で読み取り、本人確認後、預金口座を開設できる。一定数の口座開設があり、期間中に具体的なクレーム

やトラブルなどが発生しなかったことから、実用化に向けた準備を詰めていく予定である。

② QRコードの読取り^(注4)

新たにQRコードの読取りが可能になり、決済などのサービスへの用途拡大を予定している。

③ Bluetooth技術によるワン・トゥ・ワン マーケティング

ATMでの取引時にスマートフォンのBluetooth機能がオンの状態であれば、専用クーポンなどのお得情報や利用明細票をスマートフォンに配信可能となる。従来は顧客へのクーポン一斉送信が主流だったが、セブン-イレブンと連携して顧客ごとに情報配信するワン・トゥ・ワン マーケティングを行えるようになる。

(3) 今後の計画

2019年11月現在の第4世代ATMの設置状況は50台程度だが、東京オリンピックが開催される2020年夏までに都内3,800台を入れ替える計画である(図表6)。その後、2024年度を

図表6 設置計画

2019年9月	リリース 入替設置開始
2020年夏	都内入替完了 予定
2024年度	全台入替完了 予定

(備考) セブン銀行公表資料より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(注)4. QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

メドに25,000台の全てを入れ替えていく。

口座開設実験の結果などを踏まえ、同サービスの全国展開、さらには顔認証・本人確認機能の他金融機関への提供も検討するほか、今後も機能・サービスの拡充に取り組んでいく。

おわりに

この10数年でコンビニエンスストア内に(コンビニ) ATMがあるのは当たり前となっ

た。仮に手数料がかかっても、ちょっとした入出金、急ぎの入出金などにコンビニATMを利用する顧客層は相当数になると想像される。

フィンテックなどの技術発展を受け、近年、セブン銀行のコンビニATMの機能・サービス拡充が加速している。信用金庫は同行の施策などに注目しつつ、自金庫のATM戦略を再構築する必要がある。